

ともに伸びよう！千葉地域の若手いちご農家

～仲間と目指す技術と経営のステップアップ～

活動事例の要旨

千葉地域ではいちごの新規参入者が多く、技術的・経営的な底上げが課題となっている。そこで、若手いちご農家及び参入予定者を対象に、栽培管理に関する知識・技術の習得や経営者能力の向上を図る研修を開催した。また、新規参入者は地域とのつながりが少ないことから、農業者同士の交流を促し、研修後もつながりを保てる仲間作りも目的の一つとした。その結果、他の農業者と積極的に交流を持ちながら、新たな技術導入や経営の多角化を進めるなど意欲的で地域に活力を与える経営体が育っている。

1 活動のねらい・目標

千葉地域では、都市近郊の立地条件を生かし、いちごの直売や観光摘みとりを主体とした経営が営まれている。需要の多さから安定した経営が望めるとして参入が相次いでおり、平成 30 年度から令和 6 年度までに 27 件の参入があった（船橋市に農地があるものの、八千代市から認定新規就農者の認定を受けた 2 名を含む）。しかし、新規参入者は経験が浅く、栽培技術や経営者能力の向上を図る必要があるほか、地域の農業者との接点が少ないことも課題となっている。そこで、栽培管理に関する知識・技術の習得や経営者能力の向上を図るとともに、農業者同士の交流や人脈を広げ、経営の安定化を図ることを目的として、新規参入者及び参入予定者 29 戸を対象としたスキルアップ研修を平成 30 年から開催した。

2 活動の内容

(1) 技術力の向上による収量の確保

ア 育苗管理と病害虫防除技術の習得

いちご栽培の基本的な技術を習得し、収量を確保するため、いちごの生理生態や育苗技術、定植後の管理、主な病害虫防除について講義するとともに、農林総合研究センターの協力を得て、最新の試験研究成果についても触れる機会を設けた。また、講義の後には研修生のほ場や篤農家のほ場を視察し、苗の様子や病害虫の発生状況を実際に見ることで、技術と知識の定着を図った。



写真 1 育苗技術の講義を受ける受講者

イ 環境制御と天敵利用技術の導入



写真2 環境制御機器の説明を受ける受講者

いちご栽培では収量の向上や農薬削減のため、環境制御や天敵の導入が進んでいる。より発展的な栽培技術を学び、品質・収量を向上させるため、メーカー等の専門家を講師として招き、技術導入に向けた講義や実演会を実施した。様々なメーカーの設備や資材について、性能や価格を比較できるようにしたほか、すでに技術導入している先進経営体を視察し、導入に向けた道筋を立てられるような研修とした。

(2) 経営者能力強化による収益の確保 ア 経営管理能力と販売力の向上

経営の現状を把握するための収支の記録方法や決算書の読み方など、基本的な経営管理スキルを学ぶ講義や実習を実施した。個々の決算書を持ち寄り、問題点の分析を行うなど、自己の経営を客観的に捉え、改善に繋げる機会となるよう工夫した。また、先進経営体による販路拡大の事例紹介や直売の優良事例視察により、販路や販売価格、販売方法について実践的に学び、販売力向上のヒントが得られるよう支援した。



写真3 直売店舗を視察し、質問する受講者

イ 多角化や販路開拓、GAP等のステップアップへ

加工品の販売や他との差別化を探る受講者が多いことを受け、経営のステップアップとして、加工等の経営多角化の事例、輸出やGAPの取組について学ぶ講義や視察を実施した。視察では、ブランド化や高付加価値化に取り組む先進経営体のほ場や加工場等を見学したほか、実践者の生の声を聞くことによって、取り組む上での課題やその解決の道筋を理解することができた。



写真4 GAP実践者の農薬庫を見学する受講者

(3) 「ともに学ぶ」つながりづくりの支援

研修生同士の交流を深め、研修終了後もつながりつづける仲間を作れるよう、研修始めには自己紹介や近況を、終わりには感想やこれからの構想を話し、相互理解を深める時間を各研修で設けた。最初のうちは積極的に質問や意見交換ができるような声かけを行う、視察前後のバスや昼食時間の席の配置を配慮するなど、「ともに学んで成長する」仲間との交流が進むように工夫し、徐々に研修生から自発的な発言が出

るようになった。

3 活動の成果

(1) 研修を通じた経営改善の取組

本研修に参加した 24 経営体 28 名のうち 9 経営体で、環境複合制御機器（4 経営体）や環境モニタリング装置（9 経営体）といった新たな機器が導入され、客観的データに基づいた栽培管理の実践に繋がった。また、加工品の販売（5 経営体）や GAP の取組（6 経営体）、ブランド認定取得（2 経営体）による経営の差別化など、11 経営体で経営改善の取組が実施された。

(2) つながりの進展と地域での活躍

同じ品目に取組む若手農業者が研修を通してともに学ぶことで、仲間意識が醸成され、研修終了後も連絡を取り合うようなつながりができた。病虫害発生状況や生育状況、販売価格など、対面やSNS等で情報・意見交換をし、ともに経営発展に取り組んでいる。千葉市内ではこのつながりを元に相互訪問による勉強会の取組が始まったほか、八千代市内では段ボール箱のふたを共同で作成し、地域のPRに生かしている。さらに、研修生の受入れや、地域の子供達をいちご収穫体験に招待するなど、地域の中核的農業者として活動の範囲を広げる農業者も出てきており、今後も活動の発展が期待される。

4 将来の方向と課題

(1) 高温対策など新たな課題への対応

近年の温暖化により、生育や花芽分化の遅延、温暖化に伴う病虫害の多発など、これまでの栽培技術が通用しない事態が起きている。研修で形成された受講者同士のネットワークの活用を促しつつ、新たな課題に対して技術的・経営的な支援をしていく。

(2) 女性農業者への研修を新たに開始

いちご栽培に携わり始めて日が浅い女性農業者を対象とした研修を新たに開始し、栽培技術を学ぶ講義や課題発見と解決に向けたワークショップによって経営への参画と経営体としての技術・経営能力の底上げにつなげる取組を実施中である。



写真5 ワークショップで発言する女性農業者

- 5 担当者 八千代グループ
千葉習志野グループ

- 6 協力機関 千葉市、市原市、八千代市、JA 千葉みらい、JA 八千代市、
JA 市原市、農林総合研究センター